

親しい友人に対する断り行動の日中対照研究

Comparative Study Between Chinese and Japanese on How to Refuse between Friends

王 源*・山本裕子**

1. はじめに

コミュニケーションにおいて、話し手は情報の伝達のみでなく、相手との対人関係をなるべく良好に保つことにも配慮して行動する。言葉を伴って相手に配慮を示す行動は、社会や言語が異なっても普遍的に存在すると考えられる。しかし、同じようなことを達成する場合でも、異なる文化や異なる言語間では、配慮言語行動に違いが見られる（野田 2012, 生越 2012 他）。

言語行動の中で、断りは相手から自分に向けられた期待（依頼の場合）や好意（誘いや申し出などの場合）に添えないという表明であるがゆえに、相手に不快感を与える危険性のある言語行動である。したがって、断る際には相手との人間関係を崩さないようさまざまな配慮をする必要がある。尾崎（2006）は「断り」の際には相手に対するさまざまな配慮と同時に、「話し手が『断り』をおこなっているのだということを相手に確実に伝えること」も重要であることを指摘し、「断り」は「関係維持と意図の伝達の両方に配慮が求められる言語行動の一つ」としている。

これまで日本語と中国語の断り行動には、多くの研究がなされてきた（蒙 2010, 王 2011 等）。先行研究では親疎関係や上下関係が異なる人間関係や、「断り」の前提となる事柄の負荷を調整した場面において、どのような表現が用いられるか、日中の断り行動においてどのようなストラテジーが使用されているかを考察している。しかし、これまでの先行研究は「依頼」や「誘い」に対する断りに研究が集中している。「断り」は「依頼」に対してだけでなく、「申し出」や「助言」に対してなされる場合もある。異なる働きかけに対する断り行動がどのようにおこなわれているのか、また、働きかけの違いによって、断り行動が日中で

* 外交学院 外語系 副教授—日本語学・日本語教育

** 人文学部 准教授—日本語学・日本語教育

はどのように異なるかを分析することによって、日本語母語話者（以下「日本人」とする）と中国語母語話者（以下「中国人」とする）がそれぞれどのようなことに配慮し、それがどのような行動に現れているのかを明らかにすることができると思う。

また、筆者らは日本に留学する中国人留学生が、日本人となかなか友人になれないということをよく聞く。「親しい友人」をはじめとする人間関係に対する捉え方が、日中で異なっている可能性がある。

以上を踏まえ、本研究では、親しい友人からの「申し出」「助言」「誘い」「依頼」という4つの行為に対する断り場面を設定し、行動の構成要素と展開パターンと表現形式という3つの側面から日中の断り行動を考察する。これによって、日中の配慮言語行動それぞれの特徴の一端を明らかにしたい。

2. 調査方法

本研究は、表1の4つの場面を設定し、日本人大学生47名、中国人大学生37名を対象に質問紙調査を実施した。

表1 4つの場面

場面1	「申し出」に対する断り	同じ部活の親しい友人に何か手伝おうかと言われた。しかし部活の仕事が複雑で、その友人がちゃんとできるかどうか心配で、断りたい。
場面2	「助言」に対する断り	親しい友人が毎日眠そうなあなたを見て、この状態が続くと学業にも支障が出そうだし、体にもよくないから、部活の仕事を減らしたと言われた。しかし、あなたは部活の仕事を減らしたくないので断りたい。
場面3	「誘い」に対する断り	親しい友人が、気分転換に一緒に買い物や散歩などしようと誘ったが、行きたくないので断りたい。
場面4	「依頼」に対する断り	親しい友人から引っ越しの手伝いをして欲しいと頼まれたが、断りたい。

これらの4つの場面はいずれも「部活動でとても忙しく、毎日やることが多く、時間をとられ、睡眠も十分にとれないような状況にあるあなた」に、「申し出」「助言」「誘い」「依頼」がなされ、それを「断る」という設定である。部活動をしていない学生であっても、アルバイトなどが容易に想定でき、どの場面も大学生にとっては身近なものである。

熊谷（2000）はある行動をするには話し手が実際の相互作用の場で相手の反応に応じて変更や修正を加えられる前に、頭の中に基本的にこういう出方をしたい、こう展開してしかるべきだと考えている行動のイメージがあると述べている。つまり、断り行動をするには、日

本人母語話者と中国人母語話者はそれぞれ相手とのやりとりをする前に、これこれのことを言うのが適切かつ必要だという「遂行イメージ」が頭の中にある。異文化コミュニケーションにおいて自分の「遂行イメージ」と異なる行動が出されると、そこで誤解や摩擦が起こる。この「遂行イメージ」を捉えるには、相手とのやりとりを書いてもらう形式ではなく、その場面で言いそうな言葉をそのまま書いてもらう方式が適している。よって、本研究はそれぞれの母語でそのまま書いてもらう方式を採用した。また言葉だけでなく、それに随伴する身振りも任意で記述してもらった。

3. 分析の方法

断り行動においては、単に「大丈夫だよ」と断るだけでなく、「この仕事、複雑だから大変だと思うよ」と相手の意向に添えない理由を述べたり、「気持ちは嬉しいけど」と相手の意向に応じたい気持ちを表明したり、「自分で頑張ってみるね」と意志を表明したりすることがある。

熊谷・篠崎（2006）は相手に対する働きかけの機能を担う最小部分を「機能的要素」と定義している。これまでも発話データを機能的要素によって分析した言語行動研究は数多くあるが、機能的要素に分割することによって行動の仕方や戦略の選択の具体的な現れを明確にできる。これを踏まえ、本研究では以下の手順で分析をおこなった。

1. 質問紙調査で得られた発話を機能的要素に分割する。
 2. 場面ごとに機能的要素の種類と出現頻度、出現順序（展開パターン）、言語形式の3つの観点から日中の断り行動を分析する。
 3. 4つの場面を通して見られる断り行動の異同から、日中の配慮言語行動を考察する。
- 以下、順に分析の結果を述べる。

4. 分析

4-1 4つの場面の機能的要素

まず4つの場面での回答を(1)のように単位分割し、相手に対する働きかけの内容によって機能的要素に分類した。(1)の「/」は単位分割点を示し、〈 〉には該当する機能的要素を示す。

- (1) この仕事、複雑だから大変だと思うよ。 / 気持ちは嬉しいけど / 自分で頑張ってみるね。
- 〈理由〉 〈気持ちの表明〉 〈意志表明〉

すべての回答を単位分割した上で、現れた機能的要素のバリエーションを整理、分類した。本研究の調査の4つの場面で日中の回答に見られた機能的要素を表2に示す。表2に示したように、日中間では機能的要素のバリエーションが異なっている。

表2 機能的要素の一覧

	機能	説明	日本語の例	中国語の例（日本語訳）
A	ためらい	相手にためらいのポーズを表す	まあ／んー／あー	哎呀（エーヤー）／啊（あー）／哎哟（エーヨー）
B	受け止め	相手の働きかけを受け入れる	そうなんだよね／いいね	确实挺忙挺累的（確かに忙しくて疲れる）／其实我也挺想去的（実は私も行きたいけど）
C	意志表明（断り）	自分の意志を表明する	大丈夫だよ!!／今回はやめようかな／手伝いに行けない	没关系（大丈夫）／我就不去了（私は行かない）／不能帮你了（手伝えない）
D	理由	相手の意向に添えない事情の説明	ちょっと複雑だから／好きでやってることだから／疲れてるから	我自己可以搞定（自分でやるから）／社团活动都很有趣，也很有意思（部活はとても面白いから）／最近太累了（最近疲れてるから）
E	詫び	相手の意向に添えないことについて申し訳ない気持ち	ごめん／ごめんね	对不起（すみません）／不好意思（ごめん）／抱歉（ごめん）
F	心配り	相手に対する配慮を示す	心配しないでいいよ／気にしないでね	不用担心我啦（心配しなくていいよ）／你放心（安心して）
G	感謝	感謝の気持ちを述べる	ありがとう／ありがとうね	谢谢／谢啦（ありがとう）
H	気持ちの表明	相手の意向に応じたい気持ちを表明する	気持ちはすごく嬉しいよ／手伝いたいんだけど	我好感动啊（感動したわ）／我真的想帮你（本当に手伝いたいんだけど）
I	良好な関係への言及	冗談や褒めなどを用いて互いの良好な関係に言及する	——	也只有你这样的好朋友才会主动来帮我（あなたのようないい友達だけが進んで手伝いに来てくれるよね）／好姐们（いいお姉さん）
J	代案	実際のな問題解決を指向する	誰か他の人に声かけてみようか？／誰か手伝える人がいないか聞いとこっか？	我帮你找别人吧（ほかの人を探してあげようか）／要不你问问××，他最近不太忙。（さもないければ××に聞こうか、彼は最近忙しくないから）
K	今後への言及	今後のことを言及する	また今度ね！／だからまた今度何かあったら手伝うわ	等我忙完再一起去（一旦落ち着いてから行こう）／之后有事我一定帮忙（今後何かあったら必ず手伝うよ）
L	保留	答えを保留する	考えてみる／考える！	——
M	その他	——	すぐに終わりそうだから先に帰っていて～	你忙你的吧。（自分のことをやって）／这两天你受累，坚持一下哈！（この2、3日疲れるだろうから、頑張ってね！）

—はその機能的要素が用いられなかったことを示す

次に、4つの場面において日本人と中国人がそれぞれどのような機能的要素をどのくらい用いているかを表3に示す。各場面で多く使われている機能的要素と注目したい部分を網掛けで示した。ここで言う使用率とは、ある機能的要素を回答の中で1回以上使用している回答者の数を回答者総数で割って算出したものである。

表3 4つの場面における機能的要素の使用人数と使用率（人（％））

機能的要素	場面1(申し出断り)		場面2(助言断り)		場面3(勧誘断り)		場面4(依頼断り)	
	日本人 (N=46)	中国人 (N=37)	日本人 (N=47)	中国人 (N=37)	日本人 (N=46)	中国人 (N=36)	日本人 (N=45)	中国人 (N=37)
ためらい	11(23.9)	4(10.8)	10(21.3)	1(2.7)	6(13.0)	—	8(17.4)	1(2.7)
受け止め	2(4.3)	—	17(36.2)	7(18.4)	12(26.1)	3(8.3)	—	—
意志表明（断り）	41(89.1)	30(75.7)	39(83.0)	24(63.2)	27(75.0)	18(50.0)	28(60.9)	16(43.2)
理由	31(67.4)	34(91.9)	29(61.7)	31(81.6)	35(76.1)	27(75.0)	42(91.3)	31(83.8)
詫び	13(28.3)	—	—	—	29(63.0)	3(8.3)	45(100)	24(64.9)
気配り	1(2.1)	4(10.8)	2(4.2)	8(21.1)	—	1(2.8)	1(2.2)	—
感謝	33(71.7)	27(64.9)	20(42.6)	11(28.9)	18(39.1)	5(13.9)	—	1(2.7)
気持ちの表明	11(23.9)	3(8.1)	3(6.4)	1(2.7)	2(4.3)	—	11(23.9)	4(10.8)
良好な関係への言及	—	10(27.0)	—	—	—	3(8.3)	—	7(18.9)
代案	—	—	—	3(7.9)	—	2(5.6)	3(6.5)	17(45.9)
今後への言及	10(21.7)	9(24.3)	4(8.5)	1(2.7)	29(63.0)	25(69.4)	5(11.1)	12(32.4)
保留	—	—	3(6.4)	—	—	—	1(2.2)	—
その他	1(2.1)	2(5.4)	—	5(13.5)	1(2.1)	1(2.8)	—	2(5.4)

表3に網掛けで示したように、〈意志表明（断り）〉と〈理由〉が日中ともに、どの場面でも多く用いられていることがわかる。よって〈意志表明〉と〈理由〉の2つが、働きかけにかかわらず、断り行動の中心的な機能的要素であると考えられる。尾崎（2006）は、「依頼」と「勧め」に対する日本人の「断り」の分析の中で、「典型的には『すみませんが、〇〇なので△△できません』のように『詫び』と『理由説明』と『断りの述部』の3つの要素が現れることが期待される」と述べている。これは表2の〈詫び〉〈理由〉〈意志表明（断り）〉の3つの機能的要素に相当する。先に述べたように、「断り」は人間関係の維持と意図の伝達の双方に注力するものであるが、「依頼」と「勧め」に対する断りにおいてはこの3つの機能的要素で実現されていることになる。本研究では表1の4つの場面の「断り」を対象とするが、働きかけが異なる場合、人間関係の維持と意図の伝達の実現に用いられる要素も異なってくるはずである。よって、「申し出」「助言」「誘い」「依頼」という働きかけの違いに応じて、現れる要素がどのように異なるのか、各場面では日本人と中国人がそれぞれどのよ

うに人間関係を崩さないよう配慮するのかを考察する必要がある。以下では場面ごとに、順に日中の断り行動の構成要素と展開パターンと表現形式を詳しく見ていく。

4-2 場面1「申し出」に対する断り行動

以下は場面1における日本人と中国人の回答の例である。

【日本語の例】

- (2) ありがとう。 / でも一人でできそうだから、 / 大丈夫だよ。
 〈感謝〉 〈理由〉 〈意志表明〉
- (3) ごめんね、 / ありがとう。 / でもなんとかかなりそうだから / 大丈夫だよ。
 〈詫び〉 〈感謝〉 〈理由〉 〈意志表明〉

【中国語の例】

- (4) 没关系、 / 我可以搞定的、 / 谢谢你哦！
 〈意志表明〉 〈理由〉 〈感謝〉
 (大丈夫、自分でできる、ありがとう！)
- (5) 社团的事还是我自己来吧 / 我正想趁这个机会锻炼锻炼自己呢。 / 不过，实在是谢谢你 /
 〈意志表明〉 〈理由〉 〈感謝〉
也只有你这样的好朋友才会主动来帮我。
 〈良好な関係への言及〉

(部活のことは自分でやるよ。ちょうどこの機会に自分を鍛えようと思っているし。でも、本当にありがとう、あなたのようないい友達だけが進んで手伝いに来てくれるね。)

さらに、表3から場面1で用いられた機能的要素のうち、多いものから5つを取り出して、表4にまとめた。

表4 場面1でよく用いられる機能的要素(%)

	1位	2位	3位	4位	5位
日本人 (N=46)	意志表明 (89.1)	感謝 (71.7)	理由 (67.4)	詫び (28.3)	気持ちの表明/ためらい (23.9)
中国人 (N=37)	理由 (91.9)	意志表明 (75.7)	感謝 (64.9)	良好な関係への言及 (27.0)	今後への言及 (24.3)

上の例(2)～(5)と表4から、場面1「申し出」に対する断りにおいては日本人と中国人どちらも〈感謝〉〈意志表明〉〈理由〉という3つの要素が典型的な要素として用いられると言える。

また、日本人は28.3%が〈詫び〉を使っているが、中国人は〈詫び〉を使う人が一人もいない。

一方、中国人の27.0%が使用する〈良好な関係への言及〉は、日本人の回答には全く見られなかった。このように典型要素以外に付け加える場合、日本人は〈詫び〉であるが、中国人は〈良好な関係への言及〉となる。つまり、人間関係を崩さないように配慮する一方で、「断り」をしていることを相手に確実に伝えるには、日中とも〈感謝〉〈意志表明〉〈理由〉という3つの要素が現れる。その上、さらに人間関係を維持しようと思うと日本人は〈詫び〉または〈気持ちの表明/ためらい〉を使うのに対して中国人は〈良好な関係への言及〉または〈今後への言及〉を使うと考えられる。

〈良好な関係への言及〉については、日本人は使う人が一人もいないのに対して、中国人は37名のうち10名が使用している。具体的にどのような内容を表現しているだろうか。

- (6) 也只有你这样的好朋友才会主动来帮我。(あなたのようないい友達だけが進んで手伝いに来てくれるよね。)
- (7) 还是你最关心我。(やっぱり君が一番私のことを心配してくれるね。)
- (8) 你真好 / 你人太好了。(君、本当にいい人だね。)

(6)(7)のようなお互い親しい関係であることを示すものもあれば、(8)のような「褒め」もある。これらはお互いに対等な立場で、同じ仲間であることを示すものである。

場面1においては、日本人は〈感謝〉を多用し、しかもその殆どが発話の先頭に現れる。また〈感謝〉を用いた人の42.4%が2回〈感謝〉を表明する。さらに〈詫び〉を用いる場合もある。相手からの恩恵に対しての〈感謝〉と相手からの好意に応えられないことに対しての〈詫び〉は、自分が低い立場に、相手が自分より上の立場にいることを示す表現である。また表4の日本人の第5位である〈気持ちの表明〉の表現を見ると、すべて「気持ちは嬉しいけど、これちょっと複雑で説明しにくいから……」のように〈理由〉に続いており、前置きのような唐突に用件を切り出さない配慮を表すものになっている。同様に5位の〈ためらい〉は「んー、(大丈夫)」 「あー(いいよー)」のように〈意志表明(断り)〉に続いており、恐縮や当惑の態度を示すものと考えられる。

このように、場面1「申し出」に対する断りにおいては、日本人は〈感謝〉と〈詫び〉を使い、前置きの表現を使ったり、恐縮や当惑の態度を示したりするが、〈良好な関係への言及〉のような対等な人間関係での表現を用いないことから、友人の申し出を「断る」ことを相手の好意に添えないこととして「申し訳ないと表現するべきもの」と捉えている。

一方、中国人は〈詫び〉を全く用いない。〈感謝〉は見られるが、日本人のように何度も述べることはなく1回だけの使用である。人間関係を維持しようとする、〈良好な関係への言及〉のような対等な人間関係での表現を用いる。

また表現においては、機能的要素である〈理由〉に日中で違いが見られた。日本人は「断り」の理由として、「ちょっと説明するのが難しくて」や「自分でやらないといけなから」

のようにもっぱら自分側の事情、責任として理由を述べている。一方、中国人は「自己可以解决（自分でできる）」と日本人と同様の理由も 22.5%あるが、「不麻烦你啦（迷惑をかけたくない）」と相手側への配慮を明示する表現も 15.0%用いられている。さらに「我自己做比较放心点（自分でやった方が安心だ）」「我不放心交给你（あなたに任せるのは心配だ）」という相手の能力不足を理由とする表現も 12.5%見られた。本研究での調査の指示文には、断る側の事情として「部活の仕事が複雑で、その友人がちゃんとできるかどうか心配で、断りたい」とあるのだが、その状態をそのまま表現している可能性があるが、こうした回答は中国人のみに見られた。つまり、日本人は理由として自分側の事情、責任を述べるという内容の制約があり、中国人は理由の内容に制約がない。ここからも中国人は対等な人間関係であると捉えていることがわかった。

このことは、さらに身振りの記述からも確認できる。日本人は30の記述のうち、14が「笑顔で」という記述であり、自分は大丈夫であることをアピールする姿勢が大きい。中国人は「拍肩、微笑（肩を抱く、微笑む）」というような身体接触をする記述が中心で「親しさ」を重視している。中国人にとっては親しい関係であることを示すことが重要であり、親しい関係であるから、理由を率直に述べても問題にならない。

4-3 場面2「助言」に対する断り行動

以下は場面2における日本人と中国人の回答の例である。

【日本語の例】

- (9) 心配してくれてありがとう。 / でも、大丈夫だよ。
 〈感謝〉 〈意志表明〉
- (10) そうだね…… / でも自分でやるって決めたことだし / 最後までやりたいんだ。 /
 〈受け止め〉 〈理由〉 〈意志表明〉
氣遣ってくれてありがとう。
 〈感謝〉

【中国語の例】

- (11) 谢谢关心啦， / 但这些是我想做的事， / 还是想继续做。
 〈感謝〉 〈理由〉 〈意志表明〉
 (心配してくれて、ありがとう。でもこれは私がやりたいことだし、続けてやりたいと思う。)
- (12) 没关系的， / 我可是体育霸，身体好着呢， / 我晚上会尽量早睡的， / 谢谢你啦！
 〈意志表明〉 〈理由〉 〈意志表明〉 〈感謝〉
 (大丈夫、体を動かしているから、とても元気だよ、夜なるべく早く寝るから、ありがと)

うね。)

表3から場面2で用いられた機能的要素のうち、多いものから5つを取り出して、表5にまとめた。

表5 場面2でよく用いられる機能的要素(%)

	1位	2位	3位	4位	5位
日本人 (N=47)	意志表明 (83.0)	理由 (61.7)	感謝 (42.6)	受け止め (36.2)	ためらい (21.3)
中国人 (N=37)	理由 (81.6)	意志表明 (63.2)	感謝 (28.9)	気配り (21.1)	受け止め (18.4)

上の例と表5から、場面2「助言」に対する断りにおいては日本人と中国人どちらも〈意志表明〉〈理由〉〈感謝〉の3つが典型的な要素として用いられていると言える。また、この場面では日中どちらも〈詫び〉は用いられていないので、日中ともにここでの「助言」を断ることに対しては「悪い」という気持ちは大きくなさそうである。このように、場面2では典型的な要素は日中間で同じだが、機能的要素としては同一であっても、それがどのような内容で表されているか、どのような言語形式によって実現されているかを以下に見ていく。

まず、表6に〈意志表明〉の表現を類型化し、多い順に示す。意志表明の表現を比較すると、中国人の回答には(13)(14)のような相手の助言をきちんと受け止めた上で、今後の自分の行動に言及している表現が37.9%ある。

表6 〈意志表明〉の表現(人(%))

	日本人(N=47)	中国人(N=37)
否定(そういうわけにいかない)	4(8.9%)	1(3.4%)
「大丈夫」による否定	22(48.9%)	11(37.9%)
意欲表明(やりたいんだよ)	15(33.3%)	4(13.8%)
助言聞き入れ(寝るようにするよ)	3(6.7%)	11(37.9%)
その他	1(2.1%)	2(6.9%)

(13) 我会注意的。(注意するよ。)

(14) 我会照顾好自己, 不会耽误学习, 影响身体的。(ちゃんと自分をケアして、勉強も疎かにならず、体にも影響しないようにする。)

これは実質的に〈受け止め〉であるのではないかと考えられる。また、中国人は21.1%が〈気

配り」 「放心（安心して）」を使い、〈気持ちの表明〉や〈良好な関係への言及〉の使用も見られている。〈気持ちの表明〉には対等な関係を表す「爱你（愛している）」のような表現が用いられている。また〈良好な関係への言及〉には「我要是过劳死，你记得帮我烧点纸（もし、私が過労で死んだら、焼紙をする¹⁾ことを忘れないでね）」 「我可是女汉子²⁾（私は男前の女子だから）」のような対等な関係ならではの冗談があった。いずれも助言してくれる友人との良好な関係を積極的に示すものである。

一方、日本人の意志表明には助言を聞き入れるものは6.7%しかなく、「大丈夫」が48.9%を占める。また、はっきりと助言を否定するものもある。日本人の行動展開パターンを見ると「〈受け止め・ためらい〉+〈意志表明・理由〉」というパターンが全体の53.2%を占めており、「助言を受け止めてから断る」表現が好まれている。〈受け止め〉を使っているが、具体的な表現を見ると、「そうだね」「そうしたいんだけど」のような型通りの表現で、中国人のように助言を受け止めてはいない、断りの単なる前置きであると考えられる。〈気持ちの表明〉も「気持ちは嬉しいけど俺は大丈夫だから」と〈意志表明（断り）〉に続いており、「前置き」と同質である。

以上のように、親しい友人の助言に対し、中国人は「助言」の内容を実質的に受け止め、またそのような助言をしてくれる友人を対等の関係であると捉えている。一方、日本人は一度受け止めてから断るという表現をするが、実際には受け止めは形式的であると言える。

4-4 場面3「誘い」に対する断り行動

以下は場面3における日本人と中国人の回答の例である。

【日本語の例】

- (15) ごめん、 / 今少し忙しいから、 / また誘って。
 〈詫び〉 〈理由〉 〈今後への言及〉
- (16) ごめんね、 / 今日は早く帰らないと約束があるんだ。 /
 〈詫び〉 〈理由〉
また今度一緒に行こう、誘ってね！
 〈今後への言及〉

【中国語の例】

- (17) 我先不出去了， / 最近社团太忙，不想动， / 等下次吧。
 〈意志表明〉 〈理由〉 〈今後への言及〉
 (とりあえずは行かない，最近部活があまりに忙しくて，出たくないんだ，また今度ね。)
- (18) 谢谢你的关心啦， / 但我还是想完成这些事，然后休息下，睡一觉， / 以后再去吧！
 〈感謝〉 〈意志表明〉 〈今後への言及〉

(心配してくれてありがとう、でもこれらのことをやり終わったら、ちょっと休んで少し寝たいんだ。今度また行こうね。)

表3から場面3で用いられた機能的要素のうち、多いものから5つを取り出して、表7にまとめた。

表7 場面3でよく用いられる機能的要素(%)

	1位	2位	3位	4位	5位
日本人 (N=46)	理由 (76.1)	意志表明 (75.0)	詫び / 今後への言及 (63.0)		感謝 (39.1)
中国人 (N=36)	理由 (75.0)	今後への言及 (69.4)	意志表明 (50.0)	感謝 (13.9)	詫び / 良好な関係への言及 / 受け止め (8.3)

上の例と表7から、場面3「誘い」に対する断りにおいては、中国人は〈理由〉〈今後への言及〉〈意志表明〉の3つが典型的な要素であるが、日本人はそれに〈詫び〉を加えた4つが典型的な要素として用いられていると言える。場面3で日本人は〈詫び〉を多用し、二度〈詫び〉を用いる人も14.7%いるが、中国人の〈詫び〉使用は36人のうち3人のみである。また、展開パターンを見てみると、日本人は発話の先頭に〈詫び〉が最も多く使われ、その後〈理由〉を述べるというパターンであるのに対して、中国人は発話の先頭に〈理由〉が最も多く使われている。このように〈詫び〉の重要性が大きな相違である。王(2011)は誘いを断る際に、人間関係や感情面の調整に留意することは日中共通であるが、その実現方法は異なっていることを指摘している。王(2011)によると、日本人は心情表出的な働きかけ〈詫び〉を重視するのに対して、中国人は主に〈理由説明〉による論理的な説得によって働きかけるといふ。表7からは日本人には中国人と比べ〈詫び〉が多いが、〈理由〉の使用率はそれほど大きく違わない。しかし上に述べたように日本人は〈詫び〉を先頭に用いるのに対し、中国人はまず〈理由〉を述べることから、やはり日中で重視する点が異なっていると言えるだろう。

また、各機能的要素に用いられる表現を見てみると、日本人は〈意志表明〉の表現では「行けない」のように可能形を用いたり(18.5%),「やめとこうかな」と断定を避けたり(18.5%),「今日は(家でゆっくりしたいから)」と限定的な否定(36.0%)をしている。このように「できれば断るべきではない」という表現をしている。また、身振りの記述に「申し訳なさそうに」や「手を合わせて謝る」と書いたものが58.8%あることから、「悪い」と思っていることを伝えることを重視していると言える。同時に残りの41.2%は「笑顔で」という記述であることから、相手に悪く思われたくないという意識があることもわかる。

中国人の〈意志表明〉の表現を見ると可能表現や非断定的な表現は見られず、「不去了(行

かない)」とはっきり断っているものが50.0%、「今天想好好睡觉（家で寝ていたい）」と自分の希望を述べるものが40.0%ある。これらはいずれも正直な気持ちを述べていると思われる。なぜなら、中には「当然去不了（もちろん行けない）」や「我更愿意听音乐，跑步，来放松（音楽を聴いたり，ランニングしたりする方がもっといいと思う，リラックスできる）」というような出かけたくないだけでなく，他の行為への欲求を述べるものもあるからである。また，場面3では数は少ないが，(19)のような冗談も見られた。

(19) 帮我买双凉鞋 41 码的，175 的衬衫白的，爹忙不出去了，谢谢儿子！哦，对了别忘了买洗衣液昨晚用完了。

(41 サイズのサンダル，175 センチの白いシャツを買ってきて。お父さんは忙しいから出かけられないよ，ありがとう，息子！ 洗剤がもうないから，買うのを忘れないでね。)

さらに「好姐们」「小天使」のような親しさを表す呼びかけの表現もあった。〈詫び〉の使用が少ないこととこれらの回答から，親しい友人からの「誘い」を断ることについて，中国人はそれほど「悪い」とは思っていないと考えられる。

以上のように，親しい友人からの「誘い」に対して，中国人は断ることに対する申し訳なさよりも，時に冗談も交え，正直な気持ちを伝えることを重視する。そこでは対等な友人関係がそのまま表現されている。日本人は断ることを「悪い」と考え，行きたいけれども行けないという言い方で詫びながら伝えている。対等な人間関係の表現は用いられない。

4-5 場面4「依頼」に対する断り行動

以下は場面4における日本人と中国人の回答の例である。

【日本語の例】

(20) ごめん， / 明日レポート提出で間に合わないから， / ごめんね， / 行けない。

〈詫び〉

〈理由〉

〈詫び〉

〈意志表明〉

(21) ごめんね。 / 手伝ってあげたいけど， / 部活が忙しくて時間が作れないの。 / ごめんね。

〈詫び〉

〈気持ちの表明〉

〈理由〉

〈詫び〉

【中国語の例】

(22) 不好意思啊， / 最近实在太忙了，昨天又是凌晨3点才睡，想补会儿觉 / 要不你找×吧。

〈詫び〉

〈理由〉

〈代案〉

(ごめんね，最近は本当に忙しくて，昨日もまた3時になってやっと寝たから，少し寝たいの。なんならxに頼んでよ。)

- (23) 我这几天真的太累了, / 对不起哦 / 我不能帮到你. / 不过我帮你找找 ×× 或 ×× 好吗?
 〈理由〉 〈詫び 〈意志表明〉 〈代案〉
 (近頃とても疲れているんだ。ごめん、手伝えなくて。でも代わりに xx か xx に頼んであげようか?)

表3から場面4で用いられた機能的要素のうち、多いものから5つを取り出して、表8にまとめた。

表8 場面4でよく用いられる機能的要素(%)

	1位	2位	3位	4位	5位
日本人 (N=45)	詫び (100)	理由 (91.3)	意志表明 (60.9)	気持ちの表明 (23.9)	ためらい (17.4)
中国人 (N=37)	理由 (83.8)	詫び (64.9)	代案 (45.9)	意志表明 (43.2)	今後への言及 (32.4)

上の例と表8から、場面4「依頼」に対する断りにおいては、日本人は〈詫び〉〈理由〉〈意志表明〉が、中国人は〈理由〉〈詫び〉〈代案〉の3つがそれぞれ典型的な要素として用いられていると言える。場面4においては、日本人の〈詫び〉の使用率は100%である。また、2回〈詫び〉を述べる人も33.3%いる。中国人も日本人ほどではないが4つの場面ではこの場面が最も〈詫び〉が用いられている。「依頼」を断ることは日中どちらにとっても〈詫び〉るべきものであることがわかる。

しかし、中国人には〈代案〉と〈今後への言及〉の使用も多く、〈代案〉は日本人の10倍、〈今後への言及〉は3倍ほどである。これらから、中国人は断ることを申し訳なく思っているが、それと同時に、友人との関係を維持したいという気持ちを表現する傾向が強いようである。

また、各表現を見ると、上の例にも示したように〈理由〉の内容には日中の違いがない。しかし〈理由〉の中で中国人は強調の表現、「实在」「太」などを多用したり、「我最近事情很多，每天晚上忙到2点才睡（最近やることがたくさんあって、每晚2時まで寝られない）」と誇張したり、何らかの形で「忙しくて大変であること」を強調している点で異なる。一方、日本人は強調が見られるものはわずか3例で、逆に「最近ちょっと忙しくて」のように「ちょっと」を用いたものが8例(17.8%)ある。この「ちょっと」は程度ではなく、断ることに對する引け目を表すものであろう。

〈意志表明〉では日本人は場面3と同様、「行けない」「手伝えない」と可能形を使うものが66.7%を占める。しかし、「無理だ」や「休みたいんだ」のような率直な表現も23.4%あり、場面3と比べてはつきりと断っている。ここからも日本人にとっては、引越しの手伝いの依頼はそれほど断りにくいことではないことが窺える。逆に中国人には、場面3には見られ

なかったが、場面4では可能形を用いた表現が見られ、断りにくいと感じているようである。

さらに〈今後への言及〉も日本人は「また今度何かあったら手伝うわ」のような漠然とした内容であるが、中国人には「要不过两天，等我闲了（二三日待ってくれたら暇になる）」のような具体的な申し出や「明天请你吃冰淇淋补偿（明日アイスをおごるよ）」などの具体的な内容の補償の申し出が41.7%ある。「代案」も同様に中国人は「我帮你找个搬家公司怎样啊？（引っ越し屋さんを探そうか）」「不过我帮你找找××或△△好吗？（××や△△に頼んでみようか）」などの具体的な代案であるが、日本人は代案自体が3例と少なく、あっても「誰か他の人に声かけてみようか？」のように漠然としたものであったり、「他の子にお願いしてもらってもいい？」のように相手の方に解決策を求める表現である。

なぜ日中では以上のような相違が見られたか確認するために、日本人と中国人各10名に対して、追加の意識調査として2つの質問をした。1つは「（場面4のような）依頼の場面で、断りにくいと感じるか。それはなぜか」で、もう1つは「親しい友人にこのように依頼し、断られたらどう答えるか」という質問である。その結果、日中では依頼に対する捉え方が大きく異なっていることがわかった。中国人は依頼を断られたあとに「没关系。（大丈夫。）」「没事。（大丈夫。）」「哦，那算了吧。（おう，じゃいいよ。）」のように言うと言った。これはすべて「断った」ことを「許す」表現である。また、「断りにくいと感じるか、それはなぜか」という質問に対して、中国人10名のうち7名は「親しい友人間では、依頼をすることは当たり前であり、友達なので何とかしてあげるべきであるので、それに添えないことに大変申し訳ないと感じ、具体的な提案や補償の申し出をする」と答えた。つまり、親しい友人に依頼することはなんでもないことで、それに添えないことは申し訳ないと思っている³⁾。

一方、日本人は断られたあとに「（そんなことを頼んで）ごめんね」と言うという回答であった。また、「断りにくいと感じるか、それはなぜか」という質問に対して、「断りにくい」と答えたのは4名だが、その理由は「困っているならできれば助けたい」であった。また、それほど断りにくくないという6名のうち、5名が「忙しいから」「面倒だから」など自分の都合を優先してもいいと答えた。残りの1名は「友人だから理解してもらえと思う」という答えであった。つまり、日本人は中国人のように親しい友人に依頼することは当たり前のことではなく、したがってそれに添えないとしても、何とかしたいという強い気持ちは見られない。

このように、日本人と中国人では、「親しい友人からの依頼」に関して捉え方が大きく異なっていることを示した。

5. 考察

ここまでの分析から日中では4つの場面の捉え方と人間関係の捉え方が異なっていること

がわかった。本章では日中それぞれの断り行動の特徴をまとめ、それぞれの「配慮」の仕方について考察する。

まず、4つの場面での日中それぞれの断り行動の特徴をまとめると表9のようになる。

表9 4つの場面での日中の断り行動の特徴

	日本人	中国人
場面1「申し出」に対する断り	相手の好意に添えないことに申し訳ないと思っている。	「申し出」を断ることを悪いとは思っていない。
場面2「助言」に対する断り	受け止めは形式的なもので、実質的に助言を拒否している。	助言の内容を実質的に受け止めている。
場面3「誘い」に対する断り	誘いに応えられないことを詫びながら伝える。	冗談も交え、率直に理由を述べて断る。
場面4「依頼」に対する断り	依頼に添えないことに対して「詫び」るが、何とかしたいという強い気持ちは見られない。	親しい友人に依頼されることは当然のことであり、それに添えないことは申し訳ないと思っている。

表9に示したように、中国人と日本人では、「悪い」「申し訳ない」と思う場面、感謝する場面が異なっている。また、4つの場面において、日本人は友人に対して対等な人間関係を表すような表現を使わないが、中国人は〈良好な関係への言及〉のような表現を用いて対等な人間関係を表す。〈理由〉や〈意志表明〉の表現を見ても、日本人には内容に制約が見られるが、中国人には制約がない。日本人は、友人関係を対等なものではなく、断り場面では断る側は「感謝すべき立場」や「詫びる立場」にあるというように「低い立場」と捉え、そのように表現するが、中国人には親しい関係を維持することが非常に重要であり、相手と自分が親しい関係であると捉えていることを積極的に表現することが、必要となっているように思われる。中国人は親しいことを示していれば、断る立場であつても相手と同じ立場で述べ、「自分がやった方が安心」というような理由を持つてくることもできる。このように、中国人と日本人では、場面の捉え方と「友人関係」の捉え方が異なっていると考えられる。

6. おわりに

本研究では、日中それぞれで重視するものが異なり、そのため「配慮」の表し方も異なっていることを示した。本研究の結果に従えば、同じ「断り」場面であっても、日本人と中国人では配慮すべきであると考え場面が異なる。また、親しい友人間での配慮の表し方も異なっている。日本人が最も相手に配慮して断っている場面と、中国人が最も配慮して断る場面は異なり、さらに「配慮していること」を示す方策も異なっていることになる。本研究では、

質問紙調査の回答から、日中の配慮言語行動について考察したが、今後は、場面の捉え方や人間関係の捉え方について意識調査をおこない、本研究で得た結果を検証する予定である。

また、日中で親しい友人関係をどう捉えるかが異なっており、配慮の表し方も違ってくることは日本語教育においても考慮すべきことであろう。実際に、本研究と同じ調査を中国人日本語学習者に対しておこなった回答には、申し出に対する断り（場面1）において「そんなことは私一人で結構だよ」や、「あなたに任せるのは心配だから」といった、日本人の回答には見られない、率直な回答が見られた。また、依頼に対する断り（場面4）において、「サークル活動は忙しくて、そんな暇はないわよ、自分でやればいいのに」という〈責め〉の回答も見られた。こうした回答は摩擦を生む可能性が十分にある。接触場面ではそれぞれの目標言語の能力不足と受け取られるかもしれないが、実際には母語での配慮言語行動を持ち込むことによる問題である。今後、学習者の回答についても分析を進め、接触場面でどのような問題が生じるか検討したい。

注

- 1) 「焼紙をする」とは死者があの世界で使えるよう紙製のお金を焼く中国の習慣である。
- 2) 「女汉子」は直訳すると「男っぽい女性」になるが、若者言葉として「(男性のように) タフな女性」を表すものである。日本語で同様の表現として近年使用されている「男前」を訳語に当てている。
- 3) 関連する指摘として蒙 (2010) では中国人には「親しいからこそ、お互いに普通よりもさらに助け合うべきである」という考えがある」と述べている。

参考文献

- (1) 王源 (2011) 『『詫び』と『理由説明』から見た断り行動』『日本語教育研究』第57号, pp. 83-92.
- (2) 生越直樹 (2012) 『『配慮』の示し方 日本と韓国の言語行動の比較から』三宅和子・野田尚史・生越直樹編『『配慮』はどのように示されるか』pp. 171-188, ひつじ書房.
- (3) 尾崎善光 (2006) 「依頼・勧めに対する断りにおける配慮の表現」『言語行動における「配慮」の諸相』国立国語研究所, pp. 89-114, くろしお出版.
- (4) 蒲谷宏 (2013) 『待遇コミュニケーション論』大修館書店.
- (5) 熊谷智子 (2000) 「言語行動分析の観点—「行動の仕方」を形づくる諸要素について」『日本語科学』(7), pp. 95-113.
- (6) 熊谷智子・篠崎晃一 (2006) 「依頼場面での働きかけ方における世代差・地方差」『言語行動における「配慮」の諸相』国立国語研究所, pp. 19-54, くろしお出版.
- (7) 近藤安月子・姫野伴子 (2012) 『日本語文法の論点 43—「日本語らしさ」のナゾが氷解する』研究社.
- (8) 近藤安月子・姫野伴子・足立さゆり・王安・池上嘉彦 (2009) 「中国語母語日本語学習者の事態把握

- 日本語主専攻学習者を対象とする調査の結果から—」JCLA 第 10 回大会予稿集, pp. 15-31.
- (9) 野田尚史 (2012) 「配慮したつもりなのに印象を与えない日本語非母語話者の言語表現・言語行動」
三宅和子・野田尚史・生越直樹編『「配慮」はどのように示されるか』, pp. 131-152, ひつじ書房.
- (10) 蒙榘 (2010) 「日中断りにおけるポライトネス・ストラテジーの一考察」『異文化コミュニケーション研究』第 22 号, pp. 1-28.

(2015 年 4 月 20 日 受理)